

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年7月8日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3891400032
事業所名	グループホーム明浜館
(ユニット名)	北ウイング
記入者(管理者)	
氏名	二宮 智恵
自己評価作成日	令和元年6月27日

<p>【事業所理念】 人生の最終ステージを安心と尊厳のあるものにする為、その人らしく生き生きと暮らせるようになる為私達は力を尽くしたい。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①日常的な外出支援の取り組みについて・・・外出、外食、買い物の声掛けを多くして、できる限り支援出来たと思います。 ②一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり・・・個々の努力が不足していると思います、今も継続中。 ③本人を共に支え合う家族との関係づくりと支援・・・こまめに連絡を取り、手紙も書いていますが、ご家族がどこまで理解してもらっているかわかりません。努力は続けています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 静かな田舎町の海を臨む高台にある事業所は、開設後12年が経過し、地域に根差し欠かせない存在となっている。職員は利用者がその人らしく生活できるように利用者本位のケアを実践している。利用者の様子がわかるよう毎月手紙を添えて家族に報告するなど、家族には定期的な連絡を取っており良好な関係が築けている。地域の協力医等と連携を図るなど看取り体制を整え、職員全員が一丸となり、利用者が最期まで安心した生活が送れるよう支援に努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	毎日は出来ていない。	◎	/	△	重度の利用者等意思疎通が難しい方は、家族等から意向や要望を聞いているが、日常的な取組みには至っていないため、今後は日々の業務に組み込み、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向をくみ取って支援することに努めて欲しい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	スタッフの力不足あり。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族とは向き合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	文章力に差があり、共有化と整理が出来ていない。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	留意というところまでいかない。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	聞こうとする姿勢あり。	/	/	○	入居時に利用者や家族から生活環境やこだわり等を聞いたり、日頃の生活において得られたりした重要な情報は記録して職員間で共有し、日々の支援につなげている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来ている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	分かっているだけ。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	本人の視点に立てない。全員は出来ていない。	/	/	△	日々の業務に追われていることから利用者が何を求めているかの視点でアセスメントする時間が十分に取れていないため、今後は利用者の視点でアセスメントを行い、利用者の満足が得られる取り組みを行うことが望まれる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	日々の仕事に追われて考えられていない。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	明らかにしする努力している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の希望を伺い思いに反映している。	/	/	/	家族や職員の意見等は反映できているが、利用者の意向が活かせていないため、今後は利用者がよりよく過ごすための意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	作成されている。	◎	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	出来ている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族は協力してもらっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	共有している。	/	/	○	利用者個々の介護計画は、職員がいつでも確認できるようになっており、内容を把握し共有している。介護計画に沿った支援ができるようケアの状況を記録し、利用者個々の言葉や暮らしの様子、職員の気づきなどについても記録しているが、一部職員の実施にとどまっているため、職員全員が記録できるよう徹底することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	引き継ぎ時の送り内容の検討が必要。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個人の力の差があるも、意欲はある。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	申し送りノートや介護記録に記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三ヶ月に一度見直している。	/	/	○	介護計画は3か月毎に見直しており、入居時のみ1か月で見直しをしている。毎月利用者一人ひとりの状況を確認し職員会議で報告している。入院等状態に変化が生じた時は、その都度関係者等を交え話し合い、現状に応じた介護計画の作成につなげている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員会議でユニット報告している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	モニタリングして、会議で話し合い計画を立てている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	月に一回以上又は適宜対応している。	/	/	○	課題等については、毎月の職員会議で定期的に話し合っている。緊急案件がある場合は、その都度担当者会議で話し合いをして、結果については家族に報告している。参加できない職員には、会議録を確認しサインをもらったり、管理者が口頭でも伝えたりするなど情報が正確に伝わるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	いろんな介護を試して、お互い気づいたことを意見交換する。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月給料日の日に決めているが、全員の日が少ない。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	記録を取り、不参加の職員に読んで確認をもらう。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用している。	/	/	○	申し送りノートや会議録を回覧することにより、職員全員が情報を共有できるようにしており、確実に情報伝達ができるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	引き継ぎをしっかりとスタッフ全員が把握に努める。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来るように努力している。	/	/	/	衣服や飲み物等は利用者が自分の好きなものを選べるよう選択の機会を設けている。利用者が喜ぶよう興味のある趣味の話の聞いたり、歌を歌ったりするなど明るい雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	決定できる方にはしてもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	全員は出来ていない。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	自己決定出来る方には出来ている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ほぼ出来ている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	△	常に意識出来ていない。	○	○	△	人権や尊厳については、研修等で学んでいるが、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた声かけ等を常に意識した行動ができていないことがあるため、今後は職員全員で徹底して欲しい。トイレ誘導等の際に、強めの口調で声かけすることがあるため、利用者を尊重し、さりげない声かけを行うよう努めて欲しい。居室に入る際にノックや声かけをせずに入ることも多いため、居室がプライベート空間であることを十分理解の上、居室へはノック等により利用者に許可を得てから入室するよう努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	慣れてくると敬意がはらえない。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	全員は出来ていない。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	十分な配慮とは言えない。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。			/	/	/	仲のよい利用者同士は席配置を隣合わせにするなど配慮しており、その場が不穏な雰囲気になりそうな時は、利用者一人ひとりの個性を認識した上で仲介するなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	日々の身体的介護に追われ一方的になっている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルはほぼなし。関りあえるようしんしている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルはない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入居時や面会時に伺っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	あまり把握出来ていない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ほぼ出来ていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	工夫はしていないが、いつでもどうぞの声掛けはする。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	年に一度か二度。病院受診の帰りに買い物や食事する。	△	○	△	一部の利用者が天気のいい日に事業所の庭に出て過ごす程度であるため、重度の利用者を含め、要望に沿った外出支援ができるよう取り組むことに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	介護タクシー等利用している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	できる限り。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	地元の行事のみ。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	ひもといていない。	/	/	/	利用者が自分で行っていることで一人でできそうなことは見守りに徹しており、手助けが必要でやむを得ない場合は一緒に行くなど、臨機応変に対応している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	取り組んでいるが、向上していない。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守りしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	/	/	/	/	/	タオルたたみや新聞を1枚ずつ仕分けしゴミ箱を作るなど、利用者それぞれにあった役割や出番があり取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	少しずつ出来ている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域とはない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	毎朝整容支援している。化粧もされている。笑顔あり。	/	/	/	食事中の食べこぼしなどを拭いているが、利用者のプライドを尊重した支援は取り組めていないため、日頃からさりげなくカバーするよう努めて欲しい。重度の利用者を含め、家族が持参した好みの衣服を着ておしゃれをするなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	スタッフが考えている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	支援出来ている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	出来ているも、プライドは考えていない。	○	○	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	ご家族の希望でホームでしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	持参されたもので支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	一日の流れになっている気がする。	/	/	/	食材は職員が調達し、献立は栄養士に立ててもらったものを参考にして、職員が考えて作成している。利用者と一緒に料理することはないため、今後は利用者も何らかの形で関わりが持てるよう検討して欲しい。献立作成時にはアレルギーを考慮した献立や、季節のものや昔懐かしいものを取り入れた献立を作成するよう工夫している。茶碗や湯呑など利用者個人の使いやすい物を使用している。職員も利用者と同じテーブルを囲み、見守り介助しながら一緒に食事している。食事時は居室のドアを開け、重度の利用者を含め調理の音や匂いなどの雰囲気を楽しむことができる。献立のバランスや調理方法等について、職員間での話し合うことはないため、今後は定期的に献立等について話し合う機会を設け、利用者がバランスよく栄養が摂れるよう支援することに期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	していません。	/	/	×	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	していません。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の物や懐かしい献立も取り入れる。誕生日は好物を。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	出来ている。。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	ほぼ出来ている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	ほぼ出来ている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	確保につとめる。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	定期的には話していない。	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	新鮮な物を取り入れる。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修に参加し、重要性が理解出来た。	/	/	/	起床時と就寝前に口腔ケアを行っているが、記録等は行っていないため、今後は日頃から利用者の口腔内の状況を確認して口腔内の健康が保てるよう清潔維持に取り組むと共に、記録に残して職員間の情報共有に努め、口腔ケアに万全を期すことに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	ほぼ出来ている。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学んでいない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	一日二回行っている。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	訪問歯科診療で対応している。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	理解出来ていない。	/	/	/	職員は利用者それぞれの排泄パターンを把握し、日中トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄用品の選択の際は家族等関係者と必要性等について見直しを含めて話し合い、利用者個々の状態に合わせた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日中基本的にトイレでの排泄を心掛けている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	改善に向けた取り組みが少ない。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	早めの声掛け、誘導を心掛けている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	出来る方にはしているが、スタッフが決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	ヤクルトやヨーグルトをすすめている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	スタッフが考えている。	◎	/	○	利用者からの要望があれば、毎日でも入浴できるほか、時間帯なども意向に沿えるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間や日程を変更する。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握しているがいつも同じではない。	/	/	/	利用者個々の生活習慣を考慮し、日中の活動量を増やすことで安眠できるよう支援しており、安易に薬剤には頼らないよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活性化に努める。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	かかりつけ医や看護師さんと相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	現在支援対象者はいない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手助けをしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	気兼ねなく出来るが掛ける方はおられない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手渡して代読する。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	お願いしているが、ご家族も忙しい様子。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	日常的には出来ていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	お金は使いたくない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	支援しているが使われない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	同意を得て管理をおこなっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	臨機応変に対応している。	◎	/	◎	緊急の病院受診や買い物等、要望があれば対応して柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	高台にあるので、気軽には立ち寄れない。	◎	◎	○	玄関には季節の花などが飾られ親しみを感じることができ、気軽に入ることができる雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	写真やカレンダー、季節の花を飾っている。	◎	◎	◎	木目調の廊下で温かみがあり、吹き抜けの天窗からは明かりが差し込み心地よさが感じられる。リビングには空気清浄機が設置され、清掃も行き届いており清潔感がある。リビングには季節に応じた花が飾られているほか、廊下には行事写真などもあり居心地よく過ごせるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	その都度おこなっている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	雰囲気は保っていると思う。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	思い思いに過ごされている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ドアの閉め忘れがたまにある。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	それぞれ持参されている。	◎	/	◎	日めくりカレンダーやぬいぐるみ、置時計など利用者それぞれがお気に入りのものや大切なものを思いのまま配置し、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	手摺の使用、ベッドの配置を考える。	/	/	/	居室前には、利用者の名前がひと目でわかるようフルネームの表札を掲げたり、トイレ前には誰が見てもわかるよう「便所」と大きく表示したりしており、利用者が安心して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	△	今の所混乱はみられない。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	手に取れる所にはない。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解しており、鍵は掛けていない。	◎	◎	◎	職員は玄関等を施錠することの弊害を理解しており、日中は施錠されておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	19:30以降は施錠する。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	常に利用者の安全を見守っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	完べきではないが概ね把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	入浴時にしっかりチェックしている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気軽に相談できている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	支援出来ている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族の希望に合わせている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	合意のもとで行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	努めている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	医療連携を取り随時相談を行っている。訪問看護でも相談をしている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医師、看護師、管理者と連絡できる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	早期発見に努め速やかに連絡している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	全員は出来ていない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	担当者が責任を持って行う。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	日常的には出来ていない。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	指示による服薬管理し、変化のある時は連絡する。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	管理者が行っている。				重度化や終末期のあり方について関係者で密に話し合い、方針を共有している。医師や看護師等医療関係者との協力体制も構築されており、職員は心強く安心して支援に努めている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	共有している。何度も話し合う。	◎		◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方針の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	行っている。					
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	説明し理解を得ている。					
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	整えている。					
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	行っている。					
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修に参加し、職員会で勉強会をする。					
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	対応に努めるが訓練は行っていない。					
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	取り入れている。					
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	対応している。					
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	△	徹底していたがインフルエンザを発生しました。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	担当者を決めて対応している。	/	/	/	クリスマス会を兼ねて家族会を年1回開催しており、約半数の家族が参加している。面会の機会の少ない家族には、利用者の様子がわかるよう管理者が書いた手紙を添え、運営推進会議の会議録と共に送付している。事業所の運営上のことや職員の異動等については、運営推進会議で報告しているが、全ての家族にきちんと伝わっていないため、今後は家族全員の理解が得られるよう取り組んで欲しい。面会の家族には必ず声かけを行い、家族から意見等を聞くほか、職員からは利用者の日頃の様子を伝えるようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	湯茶の提供・いつでも面会をとお伝えしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	推進会議や家族会	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	遠方の家族にはこまめに連絡している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	心掛けている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時やケアプランの説明時に伺う。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	報告している。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	様々な事はしていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	説明している。対応策も話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に時間を取って伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	納得をいただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	同意書をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	推進会議や家族会の時のみ。	/	◎	/	地方祭に参加し神輿も来てもらうなど、地域との関係を深めるよう努めているが、近隣住民とのつながりはそれほどできていないのが現状である。今後は運営推進会議等で地域とのネットワークづくり等について検討するなど、地域との関係づくりに積極的に取り組むことに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	全員は出来ていない。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	増えていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	年に一度か二度来られる。出かける方が多い。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	限界集落となり厳しい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	一年に1.2回あるかないか。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	豊かな暮らしにはつながっていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	理美容の店の方々は協力的。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	だいたい同じ方々になってしまう。	◎	/	△	運営推進会議には家族、民生委員等地域の関係者の参加を得ているが、利用者の参加がなく参加者も固定化しているため、議題や日程調整の仕方を工夫するなど、利用者をはじめ参加者が増えるような取組みに期待したい。外部評価への取組み状況等について報告している。会議参加者の意見を取り入れ、緊急災害対策としてヘルメットを購入し、避難訓練に使用したことなどを会議で報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	努力している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関に置いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。	/	/	/	代表者は職員と会う機会がほとんどなく、事業所のことは代理である事務長を通して伝える程度であり、職員の状況等を把握するには不十分なため、代表者と職員が関わる機会を設けるなど、職員や事業所のことを理解してもらい、働きやすい職場環境づくりに努めることが望まれる。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居時と推進会議の時に伝えている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	管理者に任せられている。	/	/	/	
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	取り組んでいるが、向上していない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	把握してもらっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	参加出来る時は積極的に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	人員確保に努めているが、依然厳しい。	○	◎	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	△	理解しているが、出来ていない。	/	/	/	
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	シフトに入っているので話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	払っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	代表者は現場に来られない。事務長が対応している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	事例に出して勉強している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今は事例が無い。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	職員は理解できない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	相談を受けたら、対応したい。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	民生児童委員さんが連携してもらっている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが周知していない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	毎月の職員会で報告している、防止策を話す。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	毎月話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	数年苦情なし。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	過去には対応した。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	過去には対応した。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	介護相談員さんに話されている。			○	利用者からは日常生活の中で聞いたり、介護相談員に意見や要望を伝え、内容は文書で送られてくるようになっている。家族からは家族会や面会時、運営推進会議などで意見や要望などを聞くようにしている。管理者は現場に入り職員とは良好な関係が築けており、職員からの意見や要望等は日頃の業務の中で聞き把握しており、毎月職員会議で話し合うようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	推進会議や家族会で機会を作っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	事務長が対応している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員会で検討している。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。(30年度)はできてない。				サービス評価結果等については、運営推進会議で報告しているが、今後の取り組みのモニターをしてもらうほど、参加者に事業所のことを理解してもらえていないのが現状である。今後は運営推進会議の参加者に事業所の取り組みをより理解してもらい、運営に活かせる具体的なアドバイスが得られるようになることが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	課題として取り上げている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	取り組んだが成果が出てないものもある。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	モニターしてもらっていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	確認出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	作成されている。				年2回の避難訓練のうち1回は運営推進会議と同時開催となっており、緊急災害時の避難訓練等について話し合う機会を持っているが、事業所の近くは空きやが多く地域との協力体制の構築には難しいのが現状である。今後は近くの警察交番等関係機関との連携をさらに深め、地域での合同避難訓練の実現に向けて努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に2回のみ実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	年に2回のみ実施している。	○	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	ネットワークの研修に参加したが、地理的に困難である。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない。				近くに民家が少ないなど地域の事情等があり、相談ニーズの集約には苦慮しており相談支援に取り組めていないのが現状である。今後は市等関係機関の協力を得て事業所のPRを行うなど、地域の相談ニーズ掘り起こしに努めるなどの取り組みに期待したい。小学生の体験学習の受け入れは実施しているが、関係機関等との協働の地域活動の実施までは至っていないため、庁舎移転の予定がある市等とも連携した協働イベントの実施に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行っていない。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	解放していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	実習が無い。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動は行っていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年7月8日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3891400032
事業所名	グループホーム明浜館
(ユニット名)	南ウイング
記入者(管理者)	
氏名	中平 智子
自己評価作成日	令和元年6月27日

<p>【事業所理念】 人生の最終ステージを安心と尊厳のあるものにする為、その人らしく生き生きと暮らせるようになる為私達は力を尽くしたい。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①日常的な外出支援の取り組みについて・・・外出、外食、買い物の声掛けを多くして、できる限り支援出来たと思います。 ②一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり・・・個々の努力が不足していると思います、今も継続中。 ③本人を共に支え合う家族との関係づくりと支援・・・こまめに連絡を取り、手紙も書いていますが、ご家族がどこまで理解してもらっているかわかりません。努力は続けています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 静かな田舎町の海を臨む高台にある事業所は、開設後12年が経過し、地域に根差し欠かせない存在となっている。職員は利用者がその人らしく生活できるように利用者本位のケアを実践している。利用者の様子がわかるよう毎月手紙を添えて家族に報告するなど、家族には定期的な連絡を取っており良好な関係が築けている。地域の協力医等と連携を図るなど看取り体制を整え、職員全員が一丸となり、利用者が最期まで安心した生活が送れるよう支援に努めている。</p>
--	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	なるべくその人の希望にそった生活が送れるよう支援している。	◎	△	△	重度の利用者等意思疎通が難しい方は、家族等から意向や要望を聞いているが、日常的な取組みには至っていないため、今後は日々の業務に組み込み、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向をくみ取って支援することに努めて欲しい。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	できるだけ、本人の意向に添えるような支援を心掛けているが、欠けていることもある。	△	△	△	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	×	できていない	△	△	△	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	×	できていない	△	△	△	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	×	見落としていることが多い	△	△	△	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時の情報提供、アセスメントを中心にご本人またはご家族の方から差支えない範囲で聞いている。	△	△	○	入居時に利用者や家族から生活環境やこだわり等を聞いたり、日頃の生活において得られたりした重要な情報は記録して職員間で共有し、日々の支援につなげている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の支援の中で状態の変化等発見、気づきにより把握に努めている	△	△	△	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ある程度把握しているが、予測不可能な場合がある。	△	△	△	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	心身の安定を図り穏やかに過ごして頂けるよう常に把握に努めている。	△	△	△	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	概ね把握している。	△	△	△	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	スタッフの都合に感じることもある。	△	△	△	日々の業務に追われていることから利用者が何を求めているかの視点でアセスメントする時間が十分に取れていないため、今後は利用者の視点でアセスメントを行い、利用者の満足が得られる取り組みを行うことが望まれる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	△	チームで検討し必要な支援は気を付けてケアしている。	△	△	△	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	本人に無理がないようなケアを心掛けている。課題への取り組みは不十分。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	その人らしく本人のペースで暮らしていけるプラン作成をしている。	/	/	/	家族や職員の意見等は反映できているが、利用者の意向が活かせていないため、今後は利用者がよりよく過ごすための意見やアイデアを反映した介護計画の作成に努めて欲しい。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族からの要望に添って作成している。医療連携とも相談して意見をもらっている。	◎	/	△	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その人の力量に合わせて、日々の過ごし方のプランとなっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族からの支えも厳しい状況の方が多く外部からの支えも困難である。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	プランの内容をすぐ閲覧できるようにしてある。ケアカンファレンスの実施。	/	/	○	利用者個々の介護計画は、職員がいつでも確認できるようになっており、内容を把握し共有している。介護計画に沿った支援ができるようケアの状況を記録し、利用者個々の言葉や暮らしの様子、職員の気づきなどについても記録しているが、一部職員の実施にとどまっているため、職員全員が記録できるよう徹底することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	×	きちんとしたことができていない。プランに沿った細かいところが不十分。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録用紙を使い細かく暮らし方を記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	介護記録用紙に細かく記録しているが毎日十分でない。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的に職員会を利用して見直しをしている。	/	/	○	介護計画は3か月毎に見直ししており、入居時のみ1か月で見直しをしている。毎月利用者一人ひとりの状況を確認し職員会議で報告している。入院等状態に変化が生じた時は、その都度関係者等を交え話し合い、現状に応じた介護計画の作成につなげている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	職員会議の後、ユニットで話し合いをしている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	本人の状態が変わればプランの見直しとしているが家族を交えての話し合いは不十分などところがある。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	状態が変わったなどの時は、スタッフ間で話し合いをしている。	/	/	○	課題等については、毎月の職員会議で定期的に話し合っている。緊急案件がある場合は、その都度担当者会議で話し合いをして、結果については家族に報告している。参加できない職員には、会議録を確認しサインをもらったり、管理者が口頭でも伝えたりするなど情報が正確に伝わるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	△	意見が活発に発言できる雰囲気作りが少し欠けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	会議は管理者が多く出勤するなどの工夫をしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	参加できなかった時は、申し送りノートなどを確認する事となっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	△	ノートに情報等記載しているが十分でない事もあり	/	/	○	申し送りノートや会議録を回覧することにより、職員全員が情報を共有できるようにしており、確実に情報伝達ができるよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日勤者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者へ情報が伝わるようにしており、申し送りノートを確認するようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	一人ひとりの1日のペースに添って、その人らしい生活が送れるよう支援している。	/	/	/	衣服や飲み物等は利用者が自分の好きなものを選べるよう選択の機会を設けている。利用者が喜ぶよう興味のある趣味の話の聞いたり、歌を歌ったりするなど明るい雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	こちらの都合で決めていることが少々ある。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	職員の思いを優先しているところも多くみられる。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	時々、職員の都合で支援していることがある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	昔話・地域とのつながりを大切にし、笑顔になる声かけに気を付けている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	その人に合わせて、言葉が引き出せるような声かけをする。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	職員が全員そのような意識で	○	○	△	人権や尊厳については、研修等で学んでいるが、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた声かけ等を常に意識した行動ができていないことがあるため、今後は職員全員で徹底して欲しい。トイレ誘導等の際に、強めの口調で声かけすることがあるため、利用者を尊重し、さりげない声かけを行うよう努めて欲しい。居室に入る際にノックや声かけをせずに入ることも多いため、居室がプライベート空間であることを十分理解の上、居室へはノック等により利用者に許可を得てから入室するよう努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	もう少し努力していく必要がある。利用者が主役であり、目立たず対応していくことがもっと必要である。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	ほぼできていると思うが、もっと配慮することは多くある。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室へ入室する際の声かけは、できていない時がある。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員規則でもあり、プライバシー保護は気を付けている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	お互いが助け合っていることを理解し、手伝ってもらった時はお礼の言葉をかけている。	/	/	/	仲のよい利用者同士は席配置を隣合わせにするなど配慮しており、その場が不穏な雰囲気になりそうな時は、利用者一人ひとりの個性を認識した上で仲介するなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	ほぼ理解できている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者さんが孤立しないよう、スタッフが声掛けしたり仲の良い方とうまく関わるように気を付けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった時は、その場でスタッフが間に入り悪化しないよう対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族に聞いたり本人との会話などから人間関係を把握している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所時の情報、本人や家族から聞き取り把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	スタッフ不足もあり、全員は支援できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会の方がいつでも気軽に来訪できる雰囲気作りを心掛けている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	スタッフの都合でホームに過ごしてもらう声掛けをしていることがある。	△	○	△	一部の利用者が天気のいい日に事業所の庭に出て過ごす程度であるため、重度の利用者を含め、要望に沿った外出支援ができるよう取り組むことに期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外部からの協力は、ほとんどない。推進会議に合わせて全員で出かけることが年1回ほど。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	桜・コスモスなどの花見が天気の良い日に玄関の外に出る。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	普段行けないような場所へ出掛けることは、あまりできていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	その時の気分や状態に合わせて支援している。	/	/	/	利用者が自分で行っていることで一人でできそうなことは見守りに徹しており、手助けが必要でやむを得ない場合は一緒に行くなど、臨機応変に対応している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	医療連携をとっている先生に相談したり、チームで話し合いをして、利用者さんの状態を把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行くようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	個人のレベルに合った無理のない、できることの支援をしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりのできること、したいことは把握できている。	/	/	/	タオルたたみや新聞を1枚ずつ仕分けしゴミ箱を作るなど、利用者それぞれにあった役割や出番があり取り組んでもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	可能な限り、その人ができること、関りを持てるよう支援している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域のイベント、催し物がある時は見物に行くに限られた人のみになっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の訴えがない方が多いので、スタッフが気を付けているが、その人らしさの把握は十分でない。	/	/	/	食事の食べこぼしなどを拭いているが、利用者のプライドを尊重した支援は取り組めていないため、日頃からさりげなくカバーするよう努めて欲しい。重度の利用者を含め、家族が持参した好みの衣服を着ておしゃれをするなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	一人ひとりのスタイルに合わせて支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	本人に添っているが、職員本位になってしまっている場合もある。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は、その人の好みの服装を支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	起床時は必ず整容の支援を行い、その都度声掛けして気を付けている。	○	○	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容・美容に行かれている方もおられ、ホームで散髪介助もしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	できている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	×	家庭料理のような料理であり、そこまで理解できているとは思えない。	/	/	/	食事は職員が調達し、献立は栄養士に立ててもらったものを参考にして、職員が考えて作成している。利用者と一緒に料理することはないため、今後は利用者も何らかの形で関わりが持てるよう検討して欲しい。献立作成時にはアレルギーを考慮した献立や、季節のものや昔懐かしいものを取り入れた献立を作成するよう工夫している。茶碗や湯呑など利用者個人の使いやすい物を使用している。職員も利用者と同じテーブルを囲み、見守り介助しながら一緒に食事している。食事時は居室のドアを開け、重度の利用者を含め調理の音や匂いなどの雰囲気を楽しむことができる。献立のバランスや調理方法等について、職員間での話し合うことはないため、今後は定期的に献立等について話し合う機会を設け、利用者がバランスよく栄養が摂れるよう支援することに期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	利用者さんのできる範囲で手伝って頂いている。	/	/	×	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食後の食器拭き、お膳拭きなどしてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なものも工夫して食べてもらったり、少しでも食べられるよう努力している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	魚・肉それぞれ嫌いな人、丼が苦手な人など好みを把握した上で、旬の食材を取り入れた献立を考えている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食べやすい食器に変えたり、なるべく見た目もよく、自分で食べられることを重視し、支援しています。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その人に合わせて、使いやすい物を提供している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に時間に食事をとりながら、食事の進み具合や入居者さん同士でトラブルがある場合は、その都度対応している。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今のところ重度な方はおられないが、そのような状態においても、おいしく食事がとれるよう努めたい。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分摂取の大切さを伝え、なるべく水分量を取れるようにしている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事や水分量の確認をしており、摂取できていない時は、こまめにすすめている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	定期的に食事形態や食量など適切に提供できているか話し合っている。	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	地域から新鮮な食材を配達してもらっている。食器乾燥機で熱処理している。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修で勉強しており、重要性を十分認識している。	/	/	/	起床時と就寝前に口腔ケアを行っているが、記録等は行っていないため、今後は日頃から利用者の口腔内の状況を確認して口腔内の健康が保てるよう清潔維持に取り組むと共に、記録に残して職員間の情報共有に努め、口腔ケアに万全を期すことに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	付き添い介助している人は、把握できているが、自分でする方は難しい場合がある。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	口腔ケアについて学ぶ機会がない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	ポリドントにつけているが、適切な手入れができていないかどうかはわからない。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後の口腔ケアの声掛けを全員に行っている。できない人は付き添い介助している。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	△	本人からの訴えがあった時のみとなっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほぼできている。	/	/	/	職員は利用者それぞれの排泄パターンを把握し、日中トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄用品の選択の際は家族等関係者と必要性等について見直しを含めて話し合い、利用者個々の状態に合わせた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個人に合ったパターンをある程度理解できている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日中は全員がトイレでの排泄ができている。状態によってオムツ・パッドを使用したり中止したりして見直しを行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	スタッフ間で検討しているが、要因を探るまでの取り組みはできていない。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンの把握に努め、一人ひとりに合った声掛けのタイミングを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人が遊んだりではできていないが、使いやすいものをスタッフ間で話し合っている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	その方に合った物をその都度話し合い使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	バランスの取れた食事、水分補給や運動してもらったり心掛けている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	時間帯や順番は職員の都合が多いが、希望に添うように努めている。	◎	/	○	利用者からの要望があれば、毎日でも入浴できるほか、時間帯なども意向に沿えるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	その人のペースに添った支援をしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	その人ができることは、時間をかけてもしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴が嫌いな方もおられるが声掛けで入ってもらっている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴時はバイタルチェックを行い、入ってもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	好きな時間に個々の方が休まれている。	/	/	/	利用者個々の生活習慣を考慮し、日中の活動量を増やすことで安眠できるよう支援しており、安易に薬剤には頼らないよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の体動を増やせるようにしたり、就寝時間を変えてみたりしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	昼夜逆転しないよう日中の活動は見直している。その後、経過によって医師に相談をしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	△	自分の気が向いたときに居室で休む方やほぼ毎日、昼寝をしている方がいるが全員ではない。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	希望時や状況に応じて支援しているが、手紙のやり取りはほぼしていない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	必要時は提案・手助け等の支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	時間帯には留意した上で、気兼ねなくできるよう配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	こちらからの働きかけにより、また希望も含めて音信をとっていただいている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	対応の困難な場合は、折り返しの連絡を頂く等、理解や協力を得ている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	できていない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	個々人の状況に応じて、可能な範囲で対応しているが日常的ではない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	訴えがある人の買い物は要望を聞き援助している。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	金銭の所持はされておらず、使いたい時に管理者からおろさせてもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	話し合えていない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理者責任のもと預かり、家族の方が来られた際に出納帳の確認・サインをお願いしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	柔軟な支援ができているとはいえない。	◎	/	◎	緊急の病院受診や買い物等、要望があれば対応して柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りできている。	◎	◎	○	玄関には季節の花などが飾られ親しみを感じることができ、気軽に出入りできる雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホーム内ゆったりとしており、家庭的な雰囲気が感じられる。	◎	◎	◎	木目調の廊下で温かみがあり、吹き抜けの天窗からは明かりが差し込み心地よさが感じられる。リビングには空気清浄機が設置され、清掃も行き届いており清潔感がある。リビングには季節に応じた花が飾られているほか、廊下には行事写真などもあり居心地よく過ごせるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝、掃除ができています。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節に合った花を飾ったり、飾りつけなど工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	同じ地区の方とお話を希望された時は気軽に行けるよう付き添っている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレ介助の際は、開けっ放しにしないよう気を付けている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	居室で本人が使いやすい物を使っている人もいるが全員とは言えない。	◎	/	◎	日めくりカレンダーやぬいぐるみ、置時計など利用者それぞれがお気に入りのものや大切なものを思いのまま配置し、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	移動手すりを取り入れ、本人の力を少しでも使ってもらえるよう支援している。	/	/	○	居室前には、利用者の名前がひと目でわかるようフルネームの表札を掲げたり、トイレ前には誰が見てもわかるよう「便所」と大きく表示したりしており、利用者が安心して自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱を招くような物品は置いていない。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	危険となる物品は置いていない。馴染みの物品はない。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中・玄関など鍵をかけることはない。別ユニットへもいつでも行けるよう開放している。	◎	◎	◎	職員は玄関等を施錠することの弊害を理解しており、日中は施錠されておらず、自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中は開放しており、自由に外へ出る事ができている。夜間のみ鍵をかけている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は開放している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	全員のファイルを作り、病歴・変化など記録している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日頃から様子を把握し、状態の変化あった時は記録に残し管理者へ報告している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	随時、訪問看護や往診などで報告し指示を受けている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	介護支援経過に細かく記録している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	基本的には協力医療機関に相談し、それから本人に合った病院への受診を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	申し送りに記入し、スタッフ全員把握しており、その都度管理者から家族へ報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	できている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	こまめに管理者が連絡し、情報交換している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入退院の時のみである。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関に相談して、指示を受けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	気軽に相談できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態に変化ある時、主治医に連絡・相談、場合によっては受診している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	訪問看護の際、詳しく聞いている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬は事務所で管理し、誤薬がないよう、二度確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	変わった様子がある時は医療機関へ報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化に応じて、情報提供している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	管理者が状態の変化と共に連絡し、家族の意向を聞いている。	/	/	/	重度化や終末期のあり方について関係者で密に話し合い、方針を共有している。医師や看護師等医療関係者との協力体制も構築されており、職員は心強く安心して支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族の思いに寄り添い、医療機関に相談しながら看取りを行っている。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期のケアについては、全員勉強不足なところもある。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	十分な説明ができていないかわからない。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	十分ではない。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	管理者が行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	流行時などは特に心掛け、研修を通して学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	日頃からの訓練はできていないが研修で学んだことを全体会を通して全員学べている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	医療機関より、情報を得ている。予防・対策については明確にはできていない。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	スタッフが流行時、感染しないよう外出時、気を付けるよう注意がある。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	こまめな手洗いの徹底をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者さんに変わったことがあれば随時、家族の方に連絡している。	/	/	/	クリスマス会を兼ねて家族会を年1回開催しており、約半数の家族が参加している。面会の機会の少ない家族には、利用者の様子がわかるよう管理者が書いた手紙を添え、運営推進会議の会議録と共に送付している。事業所の運営上のことや職員の異動等については、運営推進会議で報告しているが、全ての家族にきちんと伝わっていないため、今後は家族全員の理解が得られるよう取り組んで欲しい。面会の家族には必ず声かけを行い、家族から意見等を聞くほか、職員からは利用者の日頃の様子を伝えるようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来られた際には、希望により居室で過ごしたり、自由にしてもらっている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	クリスマス会の参加で楽しんでもらっている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	遠方の家族については近況を報告したり、手紙・写真などを送っている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	会議などで、知りたいことが	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	×	できていない。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	時々、手紙で報告している。	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	イベントが少ないように感じられ、家族同士の交流は推進会のみである。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	×	そこまでの対応できていない。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	家族が気がかりなことを訴えられた時は対応している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	納得をいただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	同意書をいただいている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	全体的にはではないが推進会議で理解して頂いている。	/	◎	/	地方祭に参加し神輿も来てもらうなど、地域との関係を深めるよう努めているが、近隣住民とのつながりはそれほどできていないのが現状である。今後は運営推進会議等で地域とのネットワークづくり等について検討するなど、地域との関係づくりに積極的に取り組むことに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事の参加を通して交流をしている。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	特に増えてはいない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	できている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	高台に建っており、気軽に立ち寄れる場所とは言えない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	できていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	ほぼできている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の方を始め、市役所・交番・消防救急隊の方、様々な方に会議など出席してもらい協力を得ている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	沢山の方が参加してもらっている。	◎	/	△	運営推進会議には家族、民生委員等地域の関係者の参加を得ているが、利用者の参加がなく参加者も固定化しているため、議題や日程調整の仕方を工夫するなど、利用者をはじめ参加が増えるような取組みに期待したい。外部評価への取組み状況等について報告している。会議参加者の意見を取り入れ、緊急災害対策としてヘルメットを購入し、避難訓練に使用したことなどを会議で報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	その都度、報告できている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	参加メンバーはいつも一緒ではないが日程の配慮ができていないかはわからない。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日々の生活の支援が理念に沿ったケアとなるよう心掛けている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	会議・イベントでは伝えている。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	ホーム以外での研修を受けている。	/	/	/	代表者は職員と会う機会がほとんどなく、事業所のことは代理である事務長を通して伝える程度であり、職員の状況等を把握するには不十分なため、代表者と職員が関わる機会を設けるなど、職員や事業所のことを理解してもらい、働きやすい職場環境づくりに努めることが望まれる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ほぼ取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	スタッフ全員の良いところを伸ばし、やりがいを持てるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	できていない。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	できていない。	○	◎	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修会などに参加し、職員会などで発表し、みんなで話し合っている。	/	/	/	職員は研修などに参加し虐待等不適切なケアについて理解しており、不適切なケアを発見した場合の対応方法や手順等について把握している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月の全体会で見直しなど行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	研修などに参加し、全体会で報告し見直しなどしているが全員徹底できているかはわからない。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	スタッフ不足で厳しい状況であるが、体調に気を付けるよう声掛けは行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	×	全員できているとは言えない。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望は、今のところない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全員できているとは言えない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	できていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	できていない。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	×	十分なマニュアル作成はできていない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	できていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	できている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクの強い方への対策は、スタッフ間で話し合い検討している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情があった時の対応が管理者のみとなっている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	同上	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	管理者が行っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	×	作られていない。	/	/	○	利用者からは日常生活の中で聞いたり、介護相談員に意見や要望を伝え、内容は文書で送られてくるようになっている。家族からは家族会や面会時、運営推進会議などで意見や要望などを聞くようにしている。管理者は現場に入り職員とは良好な関係が築けており、職員からの意見や要望等は日頃の業務の中で聞き把握しており、毎月職員会議で話し合うようにしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	玄関に苦情BOXは設置している。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	十分ではない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	作られていない。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月に一度、全体会で一人ひとりに問いかけている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	年間目標を個人で立てているが、十分に				サービス評価結果等については、運営推進会議で報告しているが、今後の取り組みのモニターをしてもらうほど、参加者に事業所のことを理解してもらえていないのが現状である。今後は運営推進会議の参加者に事業所の取り組みをより理解してもらい、運営に活かせる具体的なアドバイスが得られるようになることが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	できている内容もあるが、統一しているとは言えない。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	明確でなく、全体的に統一できていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	十分ではない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	十分にはできていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	年に2回、火災訓練を消防署立会いのもと、行っている。				年2回の避難訓練のうち1回は運営推進会議と同時開催となっており、緊急災害時の避難訓練等について話し合う機会を持っているが、事業所の近くは空きやが多く地域との協力体制の構築には難しいのが現状である。今後は近くの警察交番等関係機関との連携をさらに深め、地域での合同避難訓練の実現に向けて努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中と夜間想定訓練が実施されている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	できている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議で行っている。	○	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	その都度できている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	できていない。				近くに民家があまりないなど地域の事情等があり、相談ニーズの集約には苦慮しており相談支援に取り組めていないのが現状である。今後は市等関係機関の協力を得て事業所のPRを行うなど、地域の相談ニーズ掘り起こしに努めるなどの取り組みに期待したい。小学生の体験学習の受け入れは実施しているが、関係機関等との協働の地域活動の実施までは至っていないため、庁舎移転の予定がある市等とも連携した協働イベントの実施に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	していない。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	していない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域イベントの参加、学校行事での訪問、体験入学などの受け入れはしている。			△	